

## 平成30年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果

大 学 名	千葉大学	タイプ	A
事 業 名	COIL を使用した日米ユニーク・プログラム		
海 外 の 相 手 校	アラバマ大学、シンシナティ大学、ニュースクール大学、ストーニーブルック大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、千葉大学と相手大学の特色と強みを活かして、ユニークな COIL 型教育プログラムを構築し、学修場所を限定しない Smart Learning と COIL を組み合わせた Smart COIL を実現した意欲的な取組である。

ラーニング・アグリーメントによる相互保証、6ターム制の導入も学生の派遣・受入を円滑にし、質保証を高める上で評価できる。COIL 型教育に関しても、既に一定程度の実績を挙げており、相手大学との連携も実績と具体的な計画が合意され事業の実効性も高く、相互に交流する学生だけを対象にするのではなく、COIL 型プログラムを千葉大学が進める学修形態の多様化に活用している。事業開始2年目からは本事業を千葉県内で単位互換等を実施している大学の学生を積極的に受け入れる点も評価できる。

また、事業期間中に新たに文理混合の大学院研究科の設置を含め「未来の雇用を創造する」人材を育成するセルフ・デザイン・メジャー専攻を計画するなど、これまでの実績に基づき発展する将来計画と見受けられ、高く評価できる。

一方で、COIL 型教育の要素である両国学生のオンライン国際協働的な教育である点に十分対応する必要があると、本事業に参加する学生の英語力向上に向けた方策が望まれる。また、教育プログラムのユニーク性と養成しようとする人材像を強く結びつける柱が不明瞭で、セルフ・デザイン・メジャー専攻が単なる文理混合教育の延長で終わることのないよう、カリキュラム構成を十分に検討する必要がある。この他、本事業経費による取組とスーパーグローバル大学創成支援事業による取組を明確に区分し、事業目的に応じた執行をすること、さらに、その成果をどのように評価するのか、中間及び事後評価時に明確に示すことが望まれる。

最後に、今回本事業に選定されたことを受け、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。